「龍とそばかすの姫」：

点数：3

良いところ：

音楽特にヒロインの歌のクオリティーが高い。歌が今作において結構重要で、物語にヒロインに起きる重要な変化はすべて歌で表現されていると言っても良いではないかぐらいです。

人物の感情を直接表現するではなく、シーンにある他のものによって間接的に描写する。

一つのシーンにおいて、物語のコンテクストや人物の心理的な変化を視聴者に使えるには主人公に「私は今怒っています。」のようなセリフを表現するのは分かりやすいですが、あまりにもかたい演出になりがちので、人物の振舞いなど言葉以外の合図で表現するのは一般的であると思います。今作において、僕にとって印象的なのは「ヒロインの鈴横断歩道向こうの幼馴染であって片思いの人でもあるしのぶくんから自分の秘密が知られていると聞いていた時、信号が赤になって二人の間を突っ切る車が多くなってきて、横断歩道向こうの顔は見えなくなり車の騒音によって声も聞けなくなって、そして車の流れがつい切れた時鈴は消えた。」というシーンです。勢いが強くなっていく車の流れはまさに二人の心の距離を表現できて、大きくなる一方の騒音も鈴の心の中の矛盾をうまく伝えたと思います。

悪いところ：

物語の書き込みが足りない。映画館で見ていた時ヒロインのよくヒロインの行動についていけなかった。「なぜヒロインがこんなに龍に興味をもっているか」「普通急にこんな親しい仲になれるか？」「一人で東京まで行って問題解決ってなんか納得できない」のような疑問は実際僕にありました。最初自分の問題かと思いましたが、結構他の視聴者にもありました。一言でいうと、共感ができなかったです。細田監督はたしかに人物の感情の表現するための演出が個性的で非常に上手いですが、その感情は十分の書き込みによって視聴者の理解と共感を得て初めて生まれるものなので、そのベースになる部分が無力だとその演出もただ作者の気持ちの押し付けになってしまうんです。脚本の無力問題は細田監督原作の作品にはみんなあったので、やはり無理しないように奥寺佐渡子さんのようなプロの脚本家に任せたほうが合理的だと正直思います。